

IV-34 地域連携におけるパーシャル連携の理念とその必要性について

東北地方整備局 秋田工事事務所 正会員○金釜 高
 東北地方整備局 秋田工事事務所 正会員 近藤 清久
 秋田大学 正会員 清水 浩志郎
 株式会社 ウヌマ地域総研 正会員 藤田 勝

1. はじめに

我が国では、人口減少、少子高齢化、低成長経済などが予想されており、成熟社会が到来する。このような成熟社会においては、従来のような成長を前提とする集積の増大を目標とした政策は適用せず、地域連携や交流を重視した政策転換が必要となる。

近年、高規格道路網を始めとした、高速交通体系が整備されつつあるなかで、従来では地域連携の対象となり得ない程の距離にある2点間においても、交流・地域連携が生じつつある。

現在、宮古市、盛岡市、秋田市をつなぐ、国道46号、国道106号の地域高規格道路化が推進されている。この実現により本地域内では、これまで考えられない地域間の新たな連携の可能性が高まるものと期待される。

以上のような背景の中で本考察は、宮古、盛岡、秋田地域の地域連携推進に向けて、本地域における地域連携の取り組み及び関連する国・県等の計画等から、地域連携軸形成に向けた課題を抽出し、新たな理念と必要性について考察を行うものである。

表-1 宮古・盛岡・秋田地域における連携への取り組みと国・県における新たな構想

地 域 連 携 活 動 團 体	団体名	構成団体等
	秋田・岩手地域連携軸推進協議会	国道46号、106号沿線市町村（岩手県：16市町村、秋田県：11市町村）
	北東北地域連携軸構想推進協議会	国道107号沿線の11市（大船渡、水沢、花巻、北上、江刺、遠野、釜石、横手、本荘、大曲、湯沢）
	北東北地域連携軸構想推進国道46号地域協議会	国道46号沿線町村（角館町、協和町、西木村、中仙町、田沢湖町、滝沢村、平石町）
	東北横断自動車道釜石秋田線地域連携軸研究会	東北横断自動車道釜石秋田線沿線市町村、岩手県、秋田県、日本道路公团、他
	奥羽山系・大曲・太田～花巻・沢内地域連携軸推進協議会	太田町、大曲市、中仙町、仙北町、花巻市、沢内村
	スノーバースターズ連絡協議会	沢内村、湯田町、安代町、平石町、松尾村等岩手県内15市町村の各福祉協議会、ボランティアグループ
	バザール街道107实行委員会	国道107号沿線の14市町村
	北上横手地域開発協議会	湯田町、北上市、東和町、沢内村、横手市、山内村
	北上川流域市町村連絡協議会	北上川流域22市町村
	岩手三陸サンライズネットワーク	宮古、久慈、釜石、大船渡商工会議所青年部
	北東北交流連携俱楽部	国道46号・106号沿線市町村内の企業経営者等
	北緯40°Bライン連携軸推進協議会	岩手県、秋田県商工会議所青年部
国 ・ 県 等 の 新 た な 構 想	計画名	策定主体・時期等
	第5次東北開発促進計画	国土庁地域振興局、平成11年3月策定、目標年次平成22～27年
	岩手県総合計画	岩手県、平成11年8月策定、目標年次平成11～22年
	秋田県総合発展計画	秋田県、平成12年2月策定、目標年次平成32年
	新青森長期総合プラン	青森県、平成9年2月策定、目標年次平成9～18年
	北東北広域連携構想	北東北広域連携推進協議会：青森県、岩手県、秋田県、平成11年10月策定、目標年次平成20年
	地域連絡プラン	岩手、秋田県内市町村が23箇域を設定し策定（県域を超える箇域設定が2箇域ある）

化に向けた効果が見えにくいなどの要因から、地域ごとに連携に対する温度差が生じることが懸念され、ある固定した地域間における地域連携への展開となることが危惧されるものである。

3. パーシャル連携の推進

(1) シリーズ型連携からの転換

これまでの地域連携に関わる活動を活かし、軸状に展開しようとする活動を尊重しつつも、地域にある素材や機能をもとに、住民の多彩なライフスタイルの展開を可能とし、暮らしやすく活力ある地域の創造に向け、それぞれの地域が自らの選択のなかで機能の分担を推進していくことが必要である。しかしながら、市町村、広域圏などの行政区域が存在するなかで、選択性の高い連携を進めていくためには、互いのメリットが明確となることが必要である。また、メリットが明確化されていないなかで連携を構築していくためには、少なくとも互いが損をしない連携スタイルと施策を提唱していくことが求められる。このような連携スタイルを共同研究者である清水がパーシャル連携と定義づけ、提唱している。

(2) パーシャル連携の考え方

パーシャル連携は、隣り合う地域同士、あるいはいくつかの地域を飛び越えて、イコールパートナーの関係のなかで、共通した課題を有する地域が、その解消に向けて互いにつながり合う。または、既に地域が有する機能の拡充に向けて互いにつながり合うことを目指した連携の形であり、多くの地域が一体となる取り組みの初動的なスタイルとなる。

このような連携のスタイルは、多自然居住地域づくりに向けた地方都市と周辺の中山間地域の連携や、地方中核都市間の連携による高度な都市機能の充実など国、県、地方が目指す地域連携の姿に整合するものであり、さらに、地域連携に期待される様々な効果を生み出すものであると期待される。

パーシャル連携が、宮古・盛岡・秋田をつなぐ地域高規格道路沿線各地で構築されることにより、人やもの、情報の流れが様々な形で発生し、結果として、帯状の連なりをつくりだし、地域連携軸が形成されるものである。そのため、国土構造に向けた大きなメリットやインパクトは望めないもの、小さな連携が各地で構築され、地域や住民の日常的な生活

への効果が期待されるものである。

(3) パーシャル連携施策の検討手法

パーシャル連携においては、地域が有する課題や機能毎の連携が地域同士の連携へつながる。

そのため、同じような課題を有する地域、あるいは機能の拡充を目指す地域を模索するため、機能毎に地域と地域のマトリックス的な視点で整理を行い(図-1)、地域連携活動の可能性や方策について検討することが必要となる。

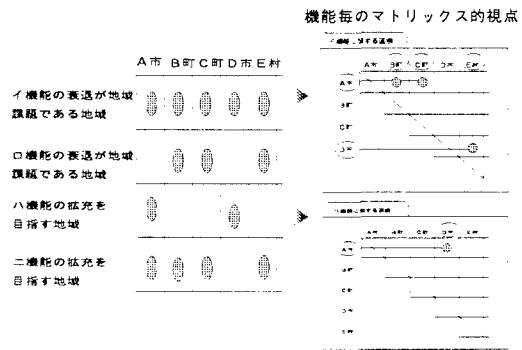


図-1 マトリックス的視点のイメージ

(4) パーシャル連携形成に向けた支援策の視点

パーシャル連携の成立は、中山間地域同士、中山間地域と都市、都市間のつながりなど、これまでのような国幹道路網など時間短縮効果の大きい道路整備のみならず、これにつながる国道や県道などの整備によっても地域連携が促進されるものである。そのため、国幹道から県道等までのすべての道路網整備が地域連携推進に向けた役割を担うものであると位置づけられる。

4. おわりに

パーシャル連携は、互いに効果は小さいけれども、損をしないという足らざる機能補完を目指した連携理念である。そのための検討分野として、観光、医療、防災、環境、福祉、教育などが考えられる。今後、分野毎に課題や素材を洗い出し、施策案を検討し、宮古・盛岡・秋田地域の地域連携推進、支援策について研究を進めていくものである。

最後に、本考察は宮古・盛岡・秋田地域連携軸研究会での研究成果を取りまとめたものであり、研究実施において、助言等を頂いた研究会の委員に対し、謝意を表す。